

週刊佛教タイムス  
2012年4月掲載

# LLPブックエンド OKUGAKE

写真 六田知弘  
監修 金峯山寺

紀伊山地の背骨にあたる大峯山脈、大峰奥駈道



は修験道の行場であり、今も生きた信仰の道。2004年には「紀伊山地の霊場と参詣道」の一つとして世界遺産にも登録された。

その深い山の中での奥駈修行を活写した写真集が本書である。

山や森、木々の自然と山伏の姿がモノクロで撮られているのだが、この表現方法が一木一草に神や仏性が宿るとされる山の霊性をそのまま写し取り、同時に芸術的だ。

一枚一枚の写真に説明は付けられていないのだが、それが却って効いて深山の霊性が語り掛けてくるようでもある。

巻末には監修した金峯山寺の田中利典執行長と白洲次郎・正子を祖父母にもつ文筆家の白洲信哉氏が対談。修験道の魅力を語り合っている。

田中執行長は「信仰の対象としての山を少しでも伝えていかなければ」と述べているが、この写真集はそれにはうってつけだろう。

(B5判変形・114頁・  
価1890円)